

伊藤極限プラズマ研究連携センターで 改組記念シンポジウム開催

平成21年10月、本学の主幹教授制度に基づく初の研究センターとして、九州大学伊藤プラズマ乱流研究センターが設立されましたが、このたび、極限プラズマ科学や光科学などの先端科学研究との連携の強化、世界的な極限プラズマ物理研究のコア・コンピタンス・ウェブの確立のため、伊藤極限プラズマ研究連携センターとして拡充改組し、平成23年6月7日(火)、改組を記念したシンポジウムが開催されました。

シンポジウムに先立ち、柳応用力学研究所所長、核融合科学研究所を代表して武藤主幹、プラズマ核融合学会会長の小川教授(東京大学)による挨拶が行われ、センターの発展を期待する旨の祝辞が述べられました。

続いてのシンポジウム講演では、最初に、本センター長である伊藤早苗主幹教授が、センター設立までの経緯および業績や、拡充改組の目的について述べました。次に、今回の拡充改組により新たに連携が強化された、マス・フォア・インターストリ研究所から落合

教授、システム情報科学研究院から白谷主幹教授、大阪大学光科学センターから児玉センター長を招き、連携理工学分野における最先端の講演、前身のセンター設立時より客員教授であるドイツのマックスプランク研究所のハラチエック博士による講演が行われました。

最後に、本学を代表して安浦理事・副学長が「プラズマ物理・核融合の一流の研究者が集まる世界的な研究中心を作り、若い研究者のキャリアパスとして目に見えるものになりたいという、センター設立の当初のビジョンを今回の拡充改組により、さらに発展させて頂きたい。」という力強い激励と祝福の言葉を述べ、シンポジウムは盛況のうちを終了しました。

その後、拡充改組を記念する祝典として伊藤教授、安浦理事、小川学会長、武藤主幹、柳所長の5名によるテープカットが和やかな雰囲気の中執り行われました。



第2回九州大学出版会・ 学術図書刊行助成対象者が決定

比較社会文化研究院の田尻義了学術研究員が九州大学出版会の第2回学術図書刊行助成対象者に決定しました。

九州大学出版会・学術図書刊行助成は、九州大学出版会加盟大学における学術研究成果のうち、学術的価値が高く、独創的で未刊行の研究成果に対し、その刊行を助成することを目的とした制度です。平成23年6月24日(金)に本部特別応接室において授与式が執り行われ、九州大学出版会会長の有川総長から

田尻学術研究員に決定通知書が渡されました。



(写真) 左より、田尻学術研究員、有川総長、安藤教授、鈴木教授

【助成対象者と図書】

■著者：田尻義了
(九州大学大学院比較社会文化研究院学術研究員)
書名(仮題)：九州弥生時代の青銅器生産体制

■編者：安藤由美・鈴木規之
(ともに琉球大学法文学部教授)
書名(仮題)：沖縄の社会構造と意識

竹村准教授がIPCC評価報告書執筆者に

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書について、応用力学研究所の竹村俊彦准教授が、執筆を担当する「Lead Author」として選出されました。

IPCCは、気候変動に関する科学的・技術的・社会経済的な評価を行い、得られた知見を政策決定者始め広く一般に周知することを目的として、世界気象機関(WMO)および国連環境計画(UNEP)により1988年に設立され、米元副大統領アル・ゴア氏とともに、

2007年にノーベル平和賞を受賞しています。

評価報告書の作成には世界中からノミネットされた多くの研究者から選出されていますが、IPCC第1作業部会では、今回日本からは10名(Lead Authorとしては8名)が選出されました。

本報告書は2013年9月公表予定で、竹村准教授は第8章(“Anthropogenic and Natural Radiative Forcing”: 人為起源と自然起源の放射強制力)を執筆する予定です。